

日本国特許庁
JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出願年月日 2003年 4月 9日
Date of Application:

出願番号 特願2003-105330
Application Number:
[ST. 10/C] : [JP2003-105330]

出願人 グローリー工業株式会社
Applicant(s):



2004年 4月 27日

特許庁長官
Commissioner,
Japan Patent Office

今井 康夫



出証番号 出証特2004-3036491

【書類名】 特許願
【整理番号】 14152101
【提出日】 平成15年 4月 9日
【あて先】 特許庁長官殿
【国際特許分類】 G07D 9/00
G07D 7/00
【発明の名称】 紙葉類処理装置および紙葉類処理システム
【請求項の数】 8
【発明者】
【住所又は居所】 兵庫県姫路市下手野一丁目3番1号 グローリー工業株
式会社内
【氏名】 竹 内 寿
【発明者】
【住所又は居所】 兵庫県姫路市下手野一丁目3番1号 グローリー工業株
式会社内
【氏名】 生 田 義 明
【発明者】
【住所又は居所】 兵庫県姫路市下手野一丁目3番1号 グローリー工業株
式会社内
【氏名】 坂 本 正 雄
【発明者】
【住所又は居所】 兵庫県姫路市下手野一丁目3番1号 グローリー工業株
式会社内
【氏名】 後 藤 浩 和
【発明者】
【住所又は居所】 大阪市淀川区宮原3丁目4番30号 ニッセイ新大阪ビ
ル20F スカイ・シンク・システム株式会社内
【氏名】 早 迫 勝

【特許出願人】**【識別番号】** 000001432**【住所又は居所】** 兵庫県姫路市下手野一丁目3番1号**【氏名又は名称】** グローリー工業株式会社**【代理人】****【識別番号】** 100075812**【弁理士】****【氏名又は名称】** 吉 武 賢 次**【選任した代理人】****【識別番号】** 100088889**【弁理士】****【氏名又は名称】** 橋 谷 英 俊**【選任した代理人】****【識別番号】** 100082991**【弁理士】****【氏名又は名称】** 佐 藤 泰 和**【選任した代理人】****【識別番号】** 100096921**【弁理士】****【氏名又は名称】** 吉 元 弘**【選任した代理人】****【識別番号】** 100103263**【弁理士】****【氏名又は名称】** 川 崎 康**【手数料の表示】****【予納台帳番号】** 087654**【納付金額】** 21,000円**【提出物件の目録】****【物件名】** 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【ブルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 紙葉類処理装置および紙葉類処理システム

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

利用者を特定する利用者特定部と、
入金処理すべき紙葉類を載置する投入部と、
前記投入部に載置された紙葉類を順次取り込む繰出部と、
前記繰出部により取り込まれた紙葉類を正券、偽券、真偽不確定券、リジェクト券の4つのカテゴリーに分類して識別する識別部と、
前記識別部で識別された、リジェクト券以外の正券、偽券、真偽不確定券を一時保留する一時保留部と、
前記一時保留部に一時保留した券を収納する複数の収納部と、
前記識別部でリジェクト券と判定された紙葉類を返却するために蓄積するリジェクト部と、を備えた紙葉類処理装置。

【請求項 2】

投入した紙葉類に対する収納指示があったときには、前記一時保留部に一時保留された正券を前記収納部に収納し、返却指示があったときには、前記一時保留部に一時保留された正券を前記リジェクト部を介して前記投入部から返却し、前記正券を収納あるいは返却するいずれの場合も、前記偽券および前記真偽不確定券については前記収納部に収納するようにしたことを特徴とする請求項1に記載の紙葉類処理装置。

【請求項 3】

前記一時保留部は1つのみ設けられたことを特徴とする、請求項1または2に記載の紙葉類処理装置。

【請求項 4】

前記識別部は紙葉類の記番号データを読みとる記番号読み取り部をさらに有することを特徴とする請求項1ないし3のいずれかに記載の紙葉類処理装置。

【請求項 5】

前記識別部は、入金時に入金紙幣から複数の識別センサによって取得した情報

を各識別センサ毎に前記4つのカテゴリーに識別して紙葉類情報を記憶する記憶部を備えたことを特徴とする請求項1ないし4のいずれかに記載の紙葉類処理装置。

【請求項6】

少なくとも前記利用者特定部で得られた利用者情報、前記識別部で得られた紙葉類情報、紙葉類を識別した装置の装置情報を関連づけた取引情報を記憶する記憶部をさらに備えたことを特徴とする請求項1ないし5のいずれかに記載の紙葉類処理装置。

【請求項7】

少なくとも前記利用者特定部で得られた利用者情報、前記識別部で得られた紙葉類情報、紙葉類を識別した装置の装置情報を通信回線を通じて外部に伝送する通信部をさらに備えたことを特徴とする請求項1ないし6のいずれかに記載の紙葉類処理装置。

【請求項8】

請求項7に記載の複数の紙葉類処理装置と、
前記各紙葉類処理装置の前記記憶部に記憶された取引情報の転送を受けて取引情報を蓄積する、センタに備えられたデータベース装置と、
前記データベース装置に蓄積された取引情報と、発見された偽券あるいは真偽不確定券の取引情報をマッチングすることにより偽券の使用者を特定するトレース部と、を備えた紙葉類処理システム。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】
本発明は、紙幣などの紙葉類の入金処理を行う紙葉類処理装置および紙葉類処理システムに関する。

【0002】

【従来の技術】
金融機関等で紙幣の入金処理を行う入金処理機を用いて入金する際、投入された紙幣を識別し、真と判断された正券（損券を含む）、偽と判断された偽券、正

券と判断できない疑わしい真偽不確定券、連鎖、斜行などのリジエクト券の4つ
のカテゴリーに分類することが従来から行われている。

【0003】

そして、正券以外の偽券、真偽不確定券、リジエクト券のいずれかであると識別された場合には、入金できないものとして顧客に返却するということが行われてきた。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】

しかしながら、偽造券の使用は犯罪であるので、偽券や真偽不確定券が使用された場合には、偽造券であるか否かを慎重に調べる必要がある。また、当該偽券・真偽不確定券は、犯罪行為の立証として用いることができる重要な証拠でもある。

【0005】

従来提案されている技術としては、取り込まれた紙幣を鑑別して、偽造券の蓋然性が高いと判定されたときには、警報を発するようにした金券類受入装置が提案されている（特許第3368906号公報参照）。

【0006】

ところが、従来の紙葉類処理装置では、偽券や真偽不確定券を返却してしまうために、偽造券の確認ができず、犯罪行為の証拠を失うという問題があった。

【0007】

本発明は、このような問題を解決するためになされたもので、偽造券の確認と偽造券使用の証拠を確保できる紙葉類処理装置および紙葉類処理システムを提供することを目的とする。

【0008】

【特許文献1】

特許第3368906号公報（特に請求の範囲）

【0009】

【課題を解決するための手段】

本発明にかかる紙葉類処理装置によれば、利用者を特定する利用者特定部と、

入金処理すべき紙葉類を載置する投入部と、前記投入部に載置された紙葉類を順次取り込む繰出部と、前記繰出部により取り込まれた紙葉類を正券、偽券、真偽不確定券、リ杰クト券の4つのカテゴリーに分類して識別する識別部と、前記識別部でリ杰クト券以外の正券、偽券、真偽不確定券を一時保留する一時保留部と、前記一時保留部に一時保留した券を収納する複数の収納部と、前記識別部でリ杰クト券と判定された紙葉類を返却するために蓄積するリ杰クト部とを備えたことを特徴とする。

【0010】

すなわち、顧客の銀行カードや指紋等で入金者を特定するとともに、投入された紙幣を識別するときには、複数の識別センサからの情報について、各識別センサ情報毎に4つのカテゴリーに分類し、この分類結果に基づいてその紙幣のカテゴリーを決定し、紙幣毎に紙幣情報として記憶装置等に記憶するようにしている。

【0011】

この結果、装置内に取り込んだ紙葉類について十分な時間をかけて真偽を確認することができるようになり、犯罪を特定したり、利用者から事情を聞くことが容易になる。このような機能を持たせるには、運用仕様の変更だけですみ、メカ機構の追加変更が不要なので、既に市場で運用中の装置であっても適用可能である。

【0012】

また、本発明にかかる紙葉類処理システムにおいては、複数の上記紙葉類処理装置と、前記各紙葉類処理装置の前記記憶部に記憶された取引情報の転送を受け取引情報を蓄積する、センタに備えられたデータベース装置と、前記データベース装置に蓄積された取引情報と、発見された偽券あるいは真偽不確定券の取引情報をマッチングすることにより偽券の使用者を特定するトレース部と、を備える。

【0013】

このシステムでは、紙葉類の識別情報と入金者（利用者）を対応させた情報をデータベース化した上でマッチング処理を行うようにしているので、偽券および

真偽不確定券の使用者を特定でき、偽造券の確認と偽造券使用の証拠確保が容易となる。

【0014】

【発明の実施の形態】

以下、図面を参照しながら本発明の実施の形態を詳細に説明する。以下の実施の形態では紙幣入金機を例にとって説明する。

【0015】

図1は本発明の実施の一形態である紙幣入金機の概略構成を示す図である。

【0016】

同図中、最上部分は繰出払出ユニット10と称され、左端部には入金すべき紙幣が束の状態で例えば最大50枚セットされる投入部（インレット部）11が設けられ、ここにセットされた紙幣束は図示しないフォトセンサにより検知され、搬送路12を束の状態で右端にある繰出部14に搬送されるようになっている。搬送路の途中には搬送路に並行して損券等のリ杰クト紙幣を例えば100枚蓄積できるリ杰クト部13が設けられており、リ杰クト紙幣を返却する際に搬送路と連結される。リ杰クト部13にリ杰クト紙幣が蓄積されたときには図示しないフォトセンサで検知され、返却枚数として例えば10～100枚を任意に指定可能となっている。

【0017】

繰出部14には束の状態で搬送された紙幣が蓄積されたことを検出する図示しないフォトセンサが設けられている。この繰出部には例えば100枚の紙幣を集めることができ、この集積された紙幣は指令に応じて繰出部が動作することによって一枚ずつ繰出される。

【0018】

紙幣入金機の中段は搬送ユニット20と称される。この搬送ユニット20は繰出部から一枚ずつ繰出された紙幣を搬送して必要な処理を行う部分であるが、その途中には紙幣の正偽や正損を判定する識別ユニット21、紙幣の有する特有の記番号を読みとる記番号ユニット22が設けられている。この記番号ユニット22はオプション仕様になっており、設けられない場合もある。

【0019】

また、識別ユニット21での判定結果に基づいて紙幣を一時保留する一時保留部23が設けられている。この一時保留部23は例えば金種混合で最大保留枚数部23が100枚となっており、カウンタにより10~100枚を指定してフル検知とすることが設定可能となっている。この一時保留部は、例えば保留した逆順で紙幣を順次取り出すことのできる巻取式のものが好ましいが、積み重ね式のものも使用できる。

【0020】

なお、識別ユニット21、記番号ユニット22および図示しないセンサで識別された結果出力される紙幣情報は、例えば1枚毎に図12に示されるようなものであり、次のような情報が含まれる。

- (a) 紙幣ID番号 一取引で計数した連番
- (b) 識別結果関係 紙幣を識別した結果得られた紙幣の固有の属性
カテゴリコード（各センサ毎の識別結果を総合的に判断した識別結果）、国コード、金種コード、方向（表裏）コード、記番号、金種判別レベル（判断基準）、
- (c) センサデータ関係 各所に設けられる各センサ毎の識別結果
透過型カラーセンサ1の赤のカテゴリ、透過型カラーセンサ1の赤外のカテゴリ、透過型カラーセンサ2青のカテゴリ、透過型カラーセンサ2赤外のカテゴリ、反射型赤外センサ1のカテゴリ、反射型赤外センサ2のカテゴリ、蛍光センサのカテゴリ、磁気センサのカテゴリ、スレッドセンサのカテゴリ、
- (d) 紙幣詳細データとしての紙幣イメージ情報

【0021】

再び紙幣入金機の構成に戻ると、最下段は収納部30となっている。収納部30は、金種別あるいは金種混在で紙幣を回収するためのフロントカセット31およびリアカセット32並びに両者の中間に設けられた、偽造券および真偽不明な紙幣を収納するキャップチャビンと称される偽造券用収納部33が設けられている。フロントカセットおよびリアカセットはそれぞれ例えば1500枚の収納容量。

があり、図示しないフォトインタラプタによるニアフル検知機能およびニアフル検知以降例えば300枚増加したことを検知するカセットフル検知機能を有している。

[0022]

偽造券用収納部33は例えば最大収納枚数が50枚となっており、図示しない
フォトセンサによる紙幣有無検知機能およびカウンタによるニアフル（例えば4
0枚）検知機能、同じくカウンタによるフル（例えば50枚）検知機能を有して
いる。

[0 0 2 3]

なお、フロントカセット、キャップチャビンの数は適宜設ければ良く、偽造券と真偽不明な紙幣を分けて収納するようにしても良い。

[0024]

図2は、この紙幣入金機における制御系および情報の伝送を説明するブロック図である。

100251

搬送ユニット部の中に装置全体を制御するメインCPUが設けられている。このメインCPUは比較的高速処理の可能なマイクロコンピュータである。また、繰出払出ユニット10、識別ユニット21、記番号ユニット22、一時保留ユニット23、カセット30にはそれぞれ繰出払出ユニットCPU101、識別ユニットCPU211、記番号ユニットCPU221、一時保留ユニットCPU231、カセットCPU301が設けられており、制御およびデータ転送機能を分担している。これらのCPUはいずれも1チップマイクロコンピュータであるが、メインCPUと比較すれば、低速かつ安価なもので十分である。

[0 0 2 6]

各ユニットのCPUは各ユニットの制御を行うだけでなく、メインCPUとの間で必要なデータの転送を行う。この場合、識別ユニットCPU211はメインCPUに通信インターフェイスを介して識別データを送信し、記番号ユニットCPU221は記番号データを通信インターフェイスを介してメインCPUに転送する。また、繰出払出ユニットCPU101、一時保留ユニットCPU231、

カセットCPU301とメインCPU間では通信インターフェースを介して制御指令の送受信が行われる。さらに、メインCPUからは偽券の鑑定のためのデータや処理記録が外部の管理コンピュータに対して送られ、その管理コンピュータから指示やデータを受け取るための通信インターフェース203を介して伝送系に接続される。

[0027]

次にこの紙幣入金機の動作について図3ないし図9を参照して説明する。図3は動作の概略を示すフローチャート、図4ないし図9は図1に示した構成図における動作の模様を示す説明図である。

[0028]

顧客の口座カード等が装置に挿入されると、顧客の情報を取得するとともに入金処理を開始する。なお、このとき、指紋を取得して顧客情報としても良い。

[0029]

処理が開始されると、装置は上位の管理コンピュータからのイネーブル指令を受信することにより、各種の計数データをクリアして投入部11のシャッタを開いて紙幣投入待ち状態になる。この状態で投入部11に紙幣束が投入されたことが検知され、図示しない操作部から計数開始が操作されると、シャッタを閉じて紙幣を繰出部14まで搬送する（ステップS4に示されるように投入部11の紙幣を繰出部14まで搬送する（ステップS1）。

[0 0 3 0]

次に、図5に示されるように、繰出部14において紙幣が1枚ずつ繰り出される（ステップS2）。繰り出された紙幣は識別ユニット21において計数されるとともに、識別が行われる（ステップS3）。識別部では、真偽、金種を識別して正券、偽券、真偽不確定券、リジェクト券の4つのカテゴリーに分類する。紙幣の識別結果が正券か（ステップS4）、偽券か（ステップS5）、真偽不確定券か（ステップS6）の判断においていずれかに該当するのであれば、一時保留部に保留される（ステップS7）。この一時保留されたものについては、保留された順に図12に示す識別情報が記憶される。

[0 0 3 1]

上記の正券、偽券、真偽不確定券のいずれでもないときには、連鎖、斜行などリジエクト券であり、搬送経路を切り換えてリジエクト部13にリジエクト券が収納される（ステップS21）。これらの分類処理は繰出部14における繰出しが終了するまで繰り返される（ステップS8, S22）。

【0032】

繰出しが終了した時点で、図6に示すように、まずリジエクト部13に収納されたリジエクト券が投入部に送られ、返却される。

【0033】

続いて、装置は上位の管理コンピュータからのディスエーブル指令を受信し、シャッタを開いた後、一時保留部23に一時保留された紙幣が処理されるが、この処理の態様としては収納か返却の2種類があり、いずれかが選択される（ステップS9）。

【0034】

図7は収納の場合（ステップS9の収納の場合）を示しており、記憶された識別情報に基づいて、一時保留部から繰り出された紙幣が正券の場合にはカセットに収納され（ステップS10, 11）、正券でない場合、すなわち偽券あるいは真偽不確定券についてはキャプチャビン33に収納される（ステップS10, 12）。カセットについては、フロントカセットとリアカセットで金種を分けて収納することも、金種混合でフロントカセットに収納し、満杯になつたらリアカセットに収納するようにしても良い。

【0035】

なお、この収納の際、記番号ユニットがある場合、収納される紙幣の記番号を読みとて識別情報に追加して紙幣情報として記憶するようとする。特にキャプチャビンに収納される偽券、真偽不確定券については記番号を記録することが望ましい。

【0036】

一方、返却の場合（ステップS9の返却の場合）には、図8および図9に示すように、正券であればリジエクト部を介して投入部から返却されるが（ステップS13, 14）、偽券あるいは真偽不確定券についてはキャプチャビン33に收

納される（ステップS13, 12）。

【0037】

以上のような処理が行われた取引について各種の情報が管理コンピュータに送られ、取引情報としてまとめられる。

【0038】

この取引情報の詳細は、図10に図示されており、1取引情報は装置番号、処理番号（入金、返却、入金返却等の処理の種類と処理の連番を組み合わせた番号）、年月日時分秒からなる処理開始日時および処理終了日時、口座番号および指紋情報等から成る顧客情報、金種毎の枚数、金額、合計枚数、合計金額等からなる計数情報、処理枚数分の図12に示す紙幣情報などからなる。この紙幣情報には前述した識別情報も含まれる。

【0039】

なお、ここでは、収納および返却処理ともに取引情報を作成するようにしているが、偽券と真偽不確定券のみの情報としても良い。

【0040】

このように、本発明の装置では、顧客（利用者）の情報と識別情報を含む紙幣情報を対応させて記憶しているので、偽造の確認、偽造券使用者の特定などの作業を容易に行うことができる。この処理を以下に説明する。

【0041】

図11は偽券の発見から使用者を特定するまでのプロセスを模式的に表した図である。

【0042】

ここでは、銀行支店A100に備えられた2台の紙幣入金機1000および1001においてキャップチャビンに偽券あるいは真偽不確定券が数枚ずつ蓄積されたときの処理について述べる。

【0043】

紙幣入金機1000、1001のメモリにはこれらの装置番号、紙幣情報および利用者情報等からなる取引情報が蓄積され、1日分の取引情報をまとめて銀行支店A100に備えられたターミナルコントローラ101を介して通信回線で銀

行センタ 300 に備えられた顧客情報データベース 301 に送られ、蓄積される

【0044】

紙幣入金機のキャプチャビンに蓄積された偽券あるいは真偽不確定券は真偽確定を行う判定機関 200（例えばヨーロッパの場合、ヨーロッパ中央銀行）に送られ、真偽について再鑑が行われる。この機関 200 においても偽券と鑑定された場合、当該偽券は再度銀行支店 A 100 の紙幣入金機 1001 に投入し、利用者を X として識別情報を採取する。この時の偽券の紙幣情報（取引情報）はターミナルコントローラ 101 を介してただちに銀行センタ 300 に送られ、銀行センタ 300 のデータベース 301 に蓄積される。

【0045】

このデータベース 301 にはトレースツール 303 であるコンピュータシステムが直接あるいはターミナルコントローラ 302 を介して通信回線で接続されおり、蓄積された取引情報から紙幣入金機 1001 の取引情報を取り出し、紙幣情報のうちのセンサ毎のカテゴリーデータと利用者 X のセンサ毎のカテゴリーデータとのマッチングを行い、一致した紙幣情報に關係づけられた利用者情報を取り出して使用者を特定することができる。このマッチング処理において、センサのカテゴリーヒートマップで全く同じヒートマップのものが 2 枚以上発見されたときには、紙幣情報のうちのイメージデータを用いたヒートマップも行って紙幣を特定する。

【0046】

図 1 では、銀行センタのターミナルコントローラ 302 を介してトレースツール 303 を接続しているが、銀行支店 A のターミナルコントローラ 101 に接続すればその場で確認できる。さらに、このように銀行支店 A 100 に備えられたターミナルコントローラ 101 に接続したトレースツール 303 で、紙幣入金機から直接取り出した利用者 X の取引情報とデータベース 301 の情報をマッチングしても良い。

【0047】

以上のように、このシステムでは、利用者情報と識別情報を対応させて記憶し、偽造券等が発見されたときには紙葉類処理装置内に取り込んで利用者に返さな

いようにした上で蓄積データとのマッチングを行うことにより、真偽の確認を確実に行うとともに利用者を特定することができるため、犯罪事実の特定や、該当する利用者からの事情聴取、犯罪者の手配等が容易となる。

【0048】

【発明の効果】

以上のように、本発明にかかる紙葉類処理装置では、顧客情報を取得すると同時に取り込まれた紙葉類を正券、偽券、真偽不確定券、リジェクト券の4つのカテゴリーに分類するとともに、センサ毎のデータに対しても4つのカテゴリーに分類して利用者情報を対応させて記憶し、一旦一時保留して、偽券および真偽不確定券については特定の収納部に収納するようにしたので、再鑑や利用者の特定を容易に行うことができる。

【0049】

また、本発明にかかる紙葉類処理システムではこのような紙葉類処理装置を用い、紙葉類の識別情報と入金者（利用者）を対応させた情報をデータベース化した上でマッチング処理を行うようにしているので、偽券および真偽不確定券の使用者を特定でき、偽造券の確認と偽造券使用の証拠確保が容易となる。

【0050】

また、本発明の装置およびシステムは従来の装置をそのまま用い、運用仕様の変更だけですむため、メカ機構の追加変更が不要となって、稼働中の装置であっても広く適用することができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】

本発明の実施の一形態である紙幣入金機の概略構成を示す図である。

【図2】

本発明の実施の一形態である紙幣入金機における制御系および情報の伝送を説明するブロック図である。

【図3】

本発明の実施の一形態である紙幣入金機における動作の概略を示すフローチャートである。

【図4】

本発明の実施の一形態である紙幣入金機における紙幣取り込みの様子を示す概念図である。

【図5】

本発明の実施の一形態である紙幣入金機における繰り出し計数の様子を示す概念図である。

【図6】

本発明の実施の一形態である紙幣入金機におけるリジェクト券の返却の様子を示す概念図である。

【図7】

本発明の実施の一形態である紙幣入金機における一時保留部の紙幣を収納部に収納する様子を示す概念図である。

【図8】

本発明の実施の一形態である紙幣入金機における一時保留部の紙幣を返却および収納する様子を示す概念図である。

【図9】

図8に統いてリジェクト部に移送された正券を返却する様子を示す概念図である。

【図10】

取引情報の詳細を示す図表である。

【図11】

偽券確認から使用者の特定までのプロセスを示す模式的説明図である。

【図12】

紙葉類入金機で取得される紙幣情報の詳細を示す図表である。

【符号の説明】

10 繰出払込ユニット

11 投入部

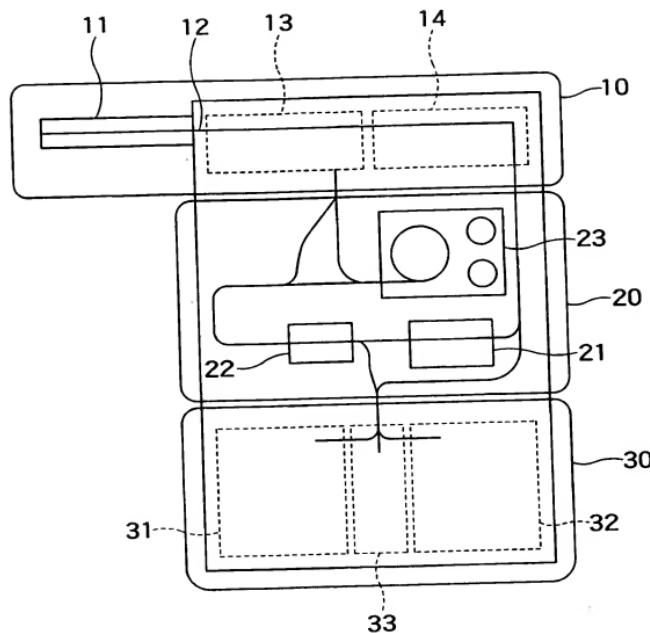
12 搬送経路

13 リジェクト部

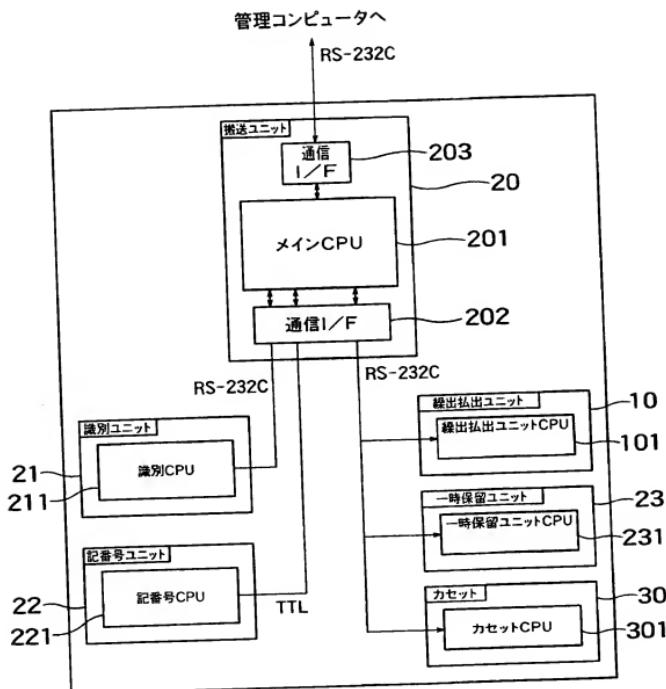
- 1 4 繰出部
- 2 0 搬送ユニット
- 2 1 識別ユニット
- 2 2 記番号ユニット
- 2 3 一時保留部
- 3 0 収納部
- 3 1 フロントカセット
- 3 2 リアカセット
- 3 3 キャプチャビン
- 1 0 0 銀行支店
- 2 0 0 判定機関
- 3 0 0 銀行センタ
- 1 0 0 1, 1 0 0 2 紙幣入金機

【書類名】 図面

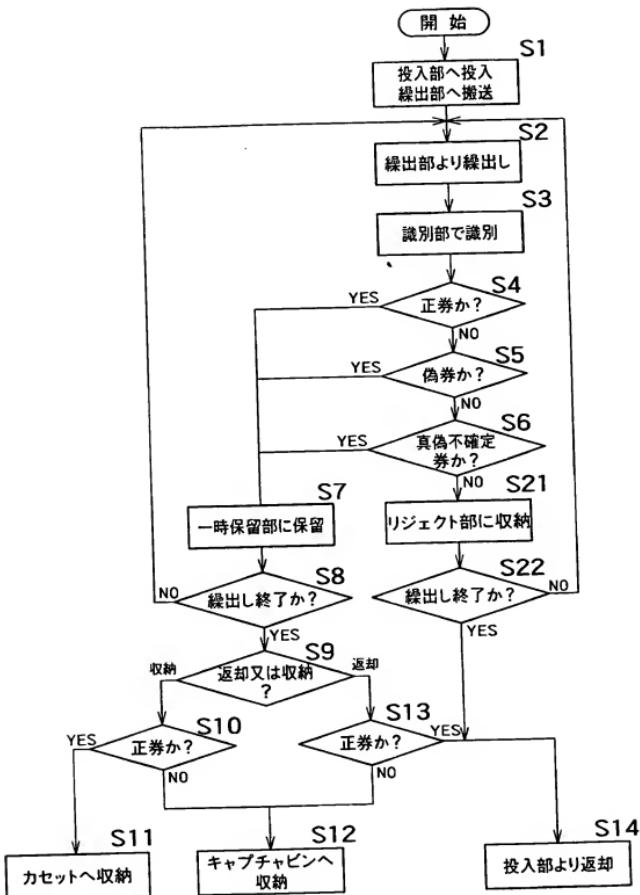
【図 1】



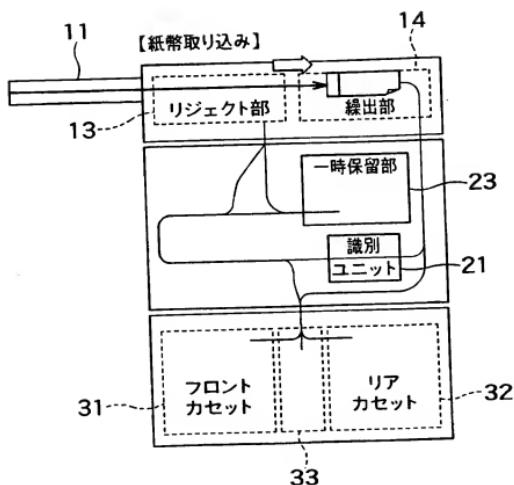
【図2】



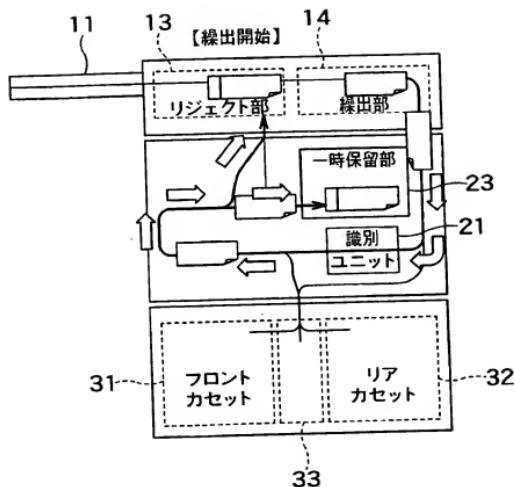
【図3】



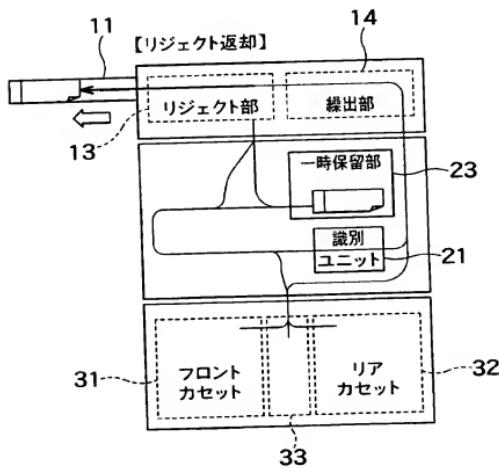
【図4】



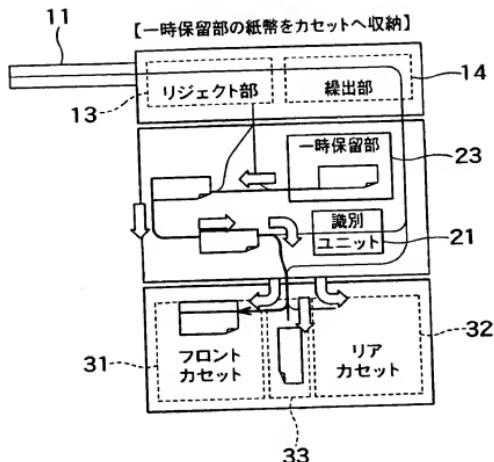
【図5】



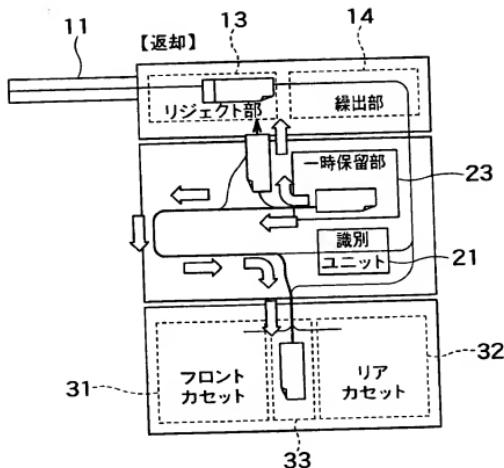
【図6】



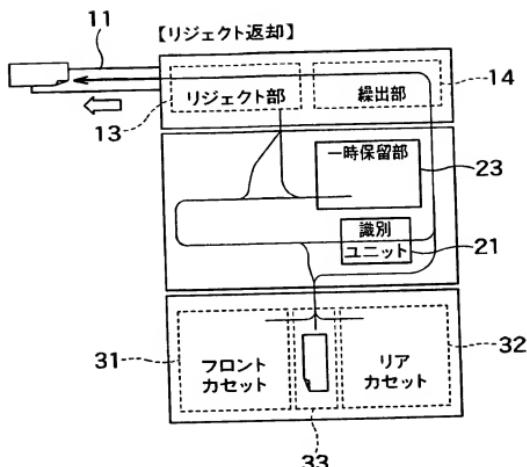
【図 7】



【図 8】



【図9】

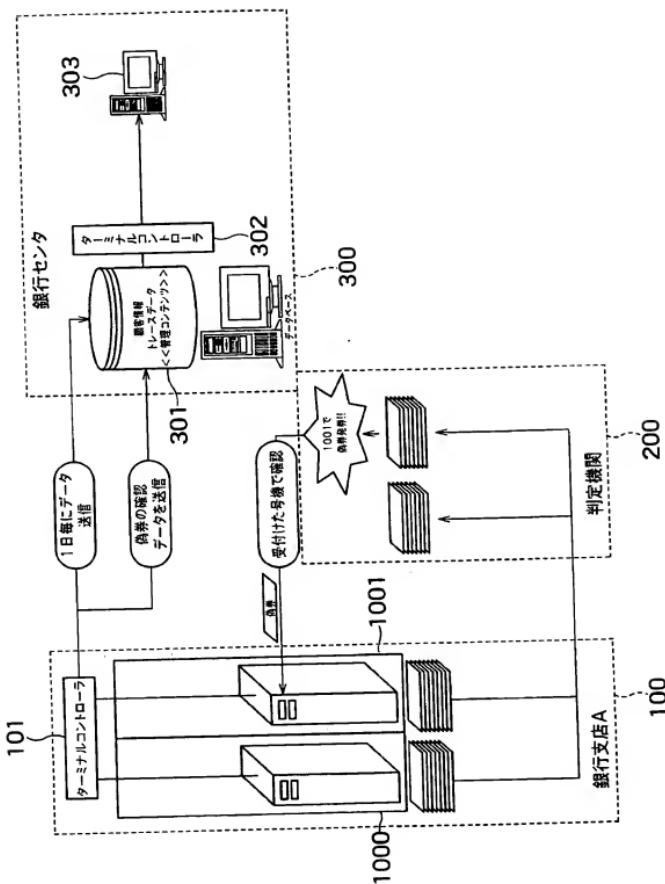


【図10】

1取引情報

内容	詳細内容
装置番号	
処理番号	
処理開始日時	年月日 時 分 秒
処理終了日時	年月日 時 分 秒
顧客情報	口座番号、指紋情報等
計数情報	金種毎の枚数、金額、合計枚数、合計金額等
紙幣情報	処理枚数分の紙幣情報
紙幣情報	処理枚数分の紙幣情報
.....
紙幣情報	処理枚数分の紙幣情報

【図11】



【図12】

1枚毎の紙幣情報

内容	詳細内容
紙幣ID番号	紙幣ID番号
識別結果	カテゴリーコード
	国コード
	金種コード
	方向コード
	記番号
	金種判別レベル
各センサデータ※	カラーセンサ1赤のカテゴリー カラーセンサ1赤外のカテゴリー カラーセンサ2青のカテゴリー カラーセンサ2赤外のカテゴリー 赤外センサ1のカテゴリー 赤外センサ2のカテゴリー 蛍光センサのカテゴリー 磁気センサのカテゴリー スレッドセンサのカテゴリー
紙幣詳細データ	紙幣イメージ情報

【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 偽造券の確認と偽造券使用の証拠を確保できる紙葉類処理装置を提供する。

【解決手段】 紙葉類処理装置は、利用者を特定する利用者特定部と、入金処理すべき紙葉類を載置する投入部と、前記投入部に載置された紙葉類を順次取り込む繰出部と、前記繰出部により取り込まれた紙葉類を正券、偽券、真偽不確定券、リ杰クト券の4つのカテゴリーに分類して識別する識別部と、前記識別部で識別された、リ杰クト券以外の正券、偽券、真偽不確定券を一時保留する一時保留部と、一時保留した券を収納する複数の収納部と、前記識別部でリ杰クト券と判定された紙葉類を返却するために蓄積するリ杰クト部と、を備える。

また、紙葉類処理システムではこのような紙葉類処理装置の記憶部に記憶された取引情報の転送を受けて取引情報を蓄積する、センタに備えられたデータベース装置と、前記データベース装置に蓄積された取引情報と発見された偽券あるいは真偽不確定券の取引情報をマッチングすることにより偽券の使用者を特定するトレース部と、を備える。

【選択図】 図3

特願 2003-105330

出願人履歴情報

識別番号 [000001432]

1. 変更年月日 1990年 8月30日

[変更理由] 新規登録

住所 兵庫県姫路市下手野1丁目3番1号
氏名 グローリー工業株式会社